長浜統合新校設置懇話会　第１回会議　概要

１　日　時

平成２５年5月２３日（木）　１５：００～１６：２０

２　場　所

滋賀県立長浜北高等学校　セミナーハウス

３　会議の内容

（１）　懇話会の位置付けと進め方について

（２）　滋賀県立高等学校再編基本計画および同実施計画について

（３）　その他

４　出席者

（１）委　員

浅見　幸則　　委員（長浜市PTA連絡協議会長）

岩崎　陽子　　委員（長浜北高等学校学校評議員）

北川　庸子　　委員（長浜高等学校学校評議員）

田中　智佐人　委員（長浜高等学校同窓会長）

藤居　茂樹　　委員（長浜市企画部長）

宮腰　悦子　　委員（児童文化活動支援グループ「すずめの学校」代表）

吉田　　豊　　委員（長浜北高等学校同窓会長）

（２）統合新校開設準備室等

辻　　浩一　　統合新校開設準備室長（長浜北高等学校長）

堤　　須賀彦　統合新校開設準備室参事（長浜高等学校長）

茶谷　不二雄　県教育委員会事務局学校支援課参事

５　会議の要旨

統合新校設置懇話会要綱に基づき、懇話会の位置付けを確認したのち、会議の進め方や公開方法、滋賀県立高等学校再編基本計画および同実施計画について説明を行い、質疑応答や意見交換を行った。

＜主な意見＞

○　どんな学校になるか思いを寄せている。よりよい高校をつくるプロセスが大事。関係者だけの会議では、新しい学校づくりにはならないのではないか。大局的な観点を持つべき。

○　８学級規模の生徒が収容できる施設の整備については、既存の施設の活用とともに新増築により教育環境を整えていく。

○　新校の設置場所は県有地の活用を基本としており、長浜高校の校地を活用する。長浜市から提案のあった土地提供については、今から新しい場所に建設するとなると期限の問題や新たな予算確保の問題が出てくる。

○　若い世代の育成は、地域にとって大きな力となる。高校再編は一番重要。県の南の地域からも生徒が来るような学校づくりをしてほしい。県レベルの教育の質を上げていく中で、湖北の位置付けをしっかりとしてほしい。

○　長浜、長浜北両校は、外国語能力強化地域形成事業の指定を受けて英語教育の充実に向けた取組を始めている。虎姫高校は、ＳＳＨ（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けて、理数教育の充実に取り組んでいる。

○　英語教育について、準備室で具体的に検討していく。例えば、米原高校の英語教育は普通科の中の１クラスを英語コースとして特化しているが、新校では全校で取り組むことになり、今までにない英語教育に取り組む。長浜市が取り組まれている小学校からの英語教育を活かす方向で検討している。

○　統合新校は基本計画の中で地域の中核となる進学校を目指すとしている。今後、教育理念や教育目標、校名、校歌などについて準備室が案を示し、懇話会委員の皆さんからご意見をいただきたいと考えている。最終的には、県教委で審議され、決定される。

○　子どもを育てるのは親の責任。現在は先生に任せきりであり、先生の負担が大きくなっている。先生がもっとゆとりを持って生徒と接することができるとよい。どういう人間を育てるかが大事。元気な子どもたち、判断力、困難を乗り切る子どもたちを育てる教育が必要。

○　母校がなくなるのは寂しいが、地域の核となる学校を期待する。

○　長浜、長浜北の生徒の雰囲気が違う気がするが、統合して両校の良い雰囲気が継承できるのか。

○　同窓会として学校の統廃合自体に反対したことはない。両校が継承される礎となる学校を作るためにも、県教委のバックアップが必要。

○　両校の歴史は継承され、新校に引き継がれる。長浜女学校の歴史、長浜北高校の歴史、長浜高校の歴史の3本の矢が合わさって新しい学校ができる。

○　新校のビジョンも一昨年の再編計画原案から計画案になって見えてきた。すべてを県教委に任せるのではなく、こうしてほしいといった要望を重ねていけばよい。中途半端な学校づくりでは、新校はつぶれてしまう。大きな改革であり、思いを持ってやらないとだめ。湖北の生徒の取り合いをするのではなく、皆さんの力を結集してステップアップできるよう、全面的な県の協力のもとで、魅力ある学校を作っていく。

○　長浜の市民に対しての周知が十分でないように思う。

○　校名、校歌などは次回以降の会議でご意見をいただきたい。次回は７月に開催。会議は今年度４回、来年度４回を予定している。